

# 中津川市地域医療実習 感想文

名古屋大学 1年生

阿木診療所の見学では、伴先生から医師として相手にどの様に接すべきか学ぶことができました。今まで正解だと思っていた方法が、実は相手の方からコミュニケーションの主導権を奪ってしまうかもしれない、と知ったときには驚きました。つくしんぼでは、子ども達に合わせた遊戯にも1つ1つ意味が込められていて、それらや他の子から影響を受けて子ども達が成長しているということを学びました。子ども達がみんな人見知りせずと一緒に楽しく時間を過ごしてくれたみたいで嬉しかったです。シクラメンでは、中津川市全体がご高齢の方々のためにどのような取り組みを実施しているのか具体的に知り、また施設を利用されている方のお話をお伺いすることができました。また、施設利用者さんの伴先生を絶賛する声がとても多く、伴先生が地域の方々にどれほど信頼されているのかを感じました。高齢支援課訪問指導に同行させていただいた時は、ご高齢者の方が介護サービス等を受けられる時にどのような点に着目してその方が必要としているものを把握するのか知ることができました。蛭川診療所では榊間先生の診療を見学しましたが、榊間先生からパーソナルドアについてお話を伺い、1人の人間として社会のためにできることをする重要性、社会的に弱い立場の人を支えるシステムの必要性をしみじみと感じました。

感想文として書いてはいますが、文字として表すことができないような発見や実感したことがたくさんありました。医療・介護・保健・福祉の現場を実際に見学することで、大学の講義だけでは得られないような発見や学びがあったように感じます。また、中津川の歴史や郷土に触れる機会や、地元の方と交流する機会もあり、ただの学習ではなく良い思い出としても記憶に残ると思います。本当に楽しかったし、充実した医療実習でした。本当にありがとうございました！